

## Dr.M'zの京都紀行 その四

今回は西本願寺の『阿弥陀堂門』から始めよう。



西本願寺は、浄土真宗本願寺派の本山であり  
正式名称を龍谷山本願寺という。

浄土真宗は、鎌倉時代に親鸞聖人によって  
鎌倉時代に開かれた。

次が『御影堂』(上)と『阿弥陀堂』(下)である。



両堂共に重要文化財に登録されている。

『御影堂』は、441枚もの畳が敷かれており、1200名以上が一度に参拝可能な世界最大級の木造建築物である。

中には親鸞聖人の御真影(木像)が安置されている。

『阿弥陀堂』が本願寺本堂であり

内陣中央には阿弥陀如来像が安置されている。

境内にある『大銀杏』は、樹齢約400年とされ

本願寺に火災が起きた際、水を噴き出して消し止めたという

伝説の『水吹き銀杏』である。



境内には、他にも国宝に指定されている『唐門』がある。



建築細部には豪華な彫刻が見られる。



これらの彫刻を眺めていると

日の暮れるのを忘れてしまうと言われ、『日暮門』とも呼ばれている。



ぜひ皆さんも、その目で見て

日が暮れるまで西本願寺を堪能して欲しい。

では、また次の機会にお会いしよう。